V. 新任教員教育セミナー

2019年9月13日、京都大学百周年時計台記念館にて、「京都大学新任教員教育セミナー 2019」を開催しました。本セミナーは、今年度が第10回目となり、本学に採用された新任教員および助教から昇任された教員を対象に実施しています。

京都大学らしい教育の在り方について考えたり、学内に存在する様々な教育支援について知っていただいたり、実際に直面している教育に関する問題や学生指導上に関わる課題などについて共有したりする場所になるようプログラムを作っています(表1)。

表1　2019年度京都大学新任教員教育セミナープログラム

13:00～	**開会式**　(司会:高等教育研究開発推進センター准教授　**山田 剛史**) **趣旨説明**　高等教育研究開発推進センター教授　**松下 佳代**
13:05～	**セッション1　オープニングレクチャー** **現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」** 理事・副学長(教育・情報・評価担当)　**北野 正雄**
13:30～	**セッション2　本学教員による授業実践紹介「私の授業」** **授業実践①**　理学研究科教授　**高橋 淑子** **授業実践②**　工学研究科教授　**小森 雅晴**
14:30～	休憩
14:50～	**セッション3　グループ別セッション**(参加型セッション)(詳細は表2参照)
14:30～	休憩
16:30～	**セッション4　インテグレーションセッション**
16:50～	**閉会式**
17:30～	**閉会挨拶**　高等教育研究開発推進センター長・教授　**飯吉 透**

当日の参加者は87名(教授15名、准教授17名、講師15名、助教40名)でした。セッション1では、北野正雄教育担当理事・副学長より「現在の大学教育の動向と京都大学の教育改革」と題したオープニングレクチャーがありました。セッション2は、自身の授業実践を紹介する「私の授業」でした。今回は、高橋淑子理学研究科教授と小森雅晴工学研究科教授より授業実践の紹介がありました。セッション3は、参加型セッションとして、用意した5つのテーマごとに部屋に分かれてのワークショップがありました(表2)。最後のセッション4は、再度全体で集まってジグソー形式によるインテグレーションセッションを行いました。

表2　セッション3 参加型セッションの各テーマと内容

【テーマ】 【担当講師】	**留学生とどう向き合うか** 理学研究科附属サイエンス連携探索センター（SACRA）国際戦略部門講師　**鈴木 あるの**
【主な内容】	研究室や授業のクラス内に留学生を見かけることが普通になりました。異なる語学能力や文化・宗教・政治的背景をもつ国々の学生が共に気持ちよく学び、多様性を建設的な議論へと結びつけるために、教員にできることは何でしょうか。このセッションでは、マナーとして最低限知っておきたい海外事情や異文化の考え方、特に本学で起こりがちな問題をご紹介すると共に、皆さんのご経験も共有していただき、より多くの疑問を解決していければと思っています。
【ファシリテーター】	高等教育研究開発推進センター　**SADEHVANDI研究員　河野研究員**
【テーマ】 【担当講師】	**研究室運営を考える** 学際融合教育研究推進センター准教授　**宮野 公樹**
【主な内容】	教員にとっての研究推進の場、そして人材育成の場である研究室。研究室を研究と教育の原動力として機能させるにはどうしたらいいでしょうか。PI（Principal Investigator）各々のやり方があるとは言え、この機会に一度考えておくのも大事かと思います。いくつかの事例と調査結果を紹介いたします。
【ファシリテーター】	高等教育研究開発推進センター　**岡本特定講師**
【テーマ】 【担当講師】	**困難を抱えた学生に向き合うには** 学生総合支援センターカウンセリングルーム講師　**和田 竜太**
【主な内容】	修学上、研究指導上の不適応を起こした学生・院生に対し、教員はどう向き合えばよいのでしょうか。学生のその後の人生を大きく左右する時期に関わっていることを意識し、可能な対応を探るにはどうすればよいでしょうか。今回は様々な不適応の様相の紹介と「困難」を知る、あるいは気づくための話の聞き方を体験・実習したいと思います。
【ファシリテーター】	高等教育研究開発推進センター　**勝間特定助教**
【テーマ】 【担当講師】	**アクティブラーニング型授業をやってみよう** 薬学研究科講師　**津田 真弘**　高等教育研究開発推進センター教授　**松下 佳代**
【主な内容】	昨年度から薬学部では、アクティブラーニングを取り入れた授業（講義を聴くだけでなく、話す、書く、発表するなど学生側の能動的な参加を含む授業）に取り組んでいます。その中で、学生たちは能動的に参加するだけでなく、協働で深く学ぶ姿勢を身につけつつあります。このセミナーでは、その授業で使っているさまざまなやり方、技法を実際に体験してもらいながら紹介します。アクティブラーニングについてまったく初めての方から、この機会にしっかり学びたいという方まで参加できます。
【ファシリテーター】	高等教育研究開発推進センター　**鈴木特定研究員**
【テーマ】 【担当講師】	**ICTを使って、普段の授業をもっと楽しく、ちょっと楽に** 高等教育研究開発推進センター准教授　**田口 真奈／酒井 博之**　情報環境機構教授　**梶田 将司**
【主な内容】	インターネット上の教育リソースや既存のICTツールをうまく使うことで、授業準備が楽になったり、教育効果をあげたりすることができます。ここでは、学内のICT活用実践事例や、簡単に使える様々なリソースを紹介します。ICTを使うのはちょっとめんどくさい、と思っておられる先生にとっては、最初のハードルが下がるような、もっと使ってみたい、と思っておられる先生にはその可能性を感じていただけるようなセミナーにしたいと思います。
【ファシリテーター】	高等教育研究開発推進センター　**安宅特定研究員**

参加者の事後アンケート（79名／回収率90.8%）より、総合評価は「4.35」（「非常に有意義」から「まったく有意義でない」の5段階）と高い評価が得られました。個々のセッションについて見てみると、上位項目としては、インテグレーションセッション（4.50）、グループ別セッション（4.41）、私の授業（4.33）となっていました。

参加して良かった点に関する自由記述では、「講義経験の無い私の背中を押してくれるような内容で良かったです。」、「学内での教育に従事する中で生じうる諸問題について、あらかじめ心がまえができたこと、そのときに相談できる方々を知ることができた点が良かった。」、「グループディスカッションなど、現在教員として疑問に思っていること、悩んでいることなどを共有し、解決できたこともあり良かったと思う。」、「グループセッションでは具体的事例を多く挙げて頂いて問題を身近に感じることができました。正解はないのだけど、自分の中で考えておく時間ができて有意義だったと思います。」、「新任ではない先生向けにも実施できれば全学的に効果が出やすいかと思います。」、「定期的にこのような機会があり、希望者が受けられるとよいと思いました。」など、様々な感想を寄せていただきました。

引き続き、先生方の声を聴きながらよりよりプログラムにしていきたいと思います。